

## 第 123 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
現金過不足	売買目的有価証券	未収金	前払金
立替金	仮払金	備品	支払手形
買掛金	未払金	前受金	預り金
引出金	仕入	消耗品費	有価証券評価損
有価証券売却損	固定資産売却損	雑損	売上
有価証券評価益	有価証券売却益	固定資産売却益	雑益

1. 藤本商店から商品 350,000 円を仕入れ、代金のうち 200,000 円については同店から為替手形の引き受けを求められたため、これを引き受け、残額については同店あての約束手形を振り出して支払った。
2. 月末に現金の実査を行ったところ、現金の実際有高が帳簿残高より 30,000 円過剰であることが判明したため、帳簿残高と実際有高とを一致させる処理を行うとともに、引き続き原因を調査することとした。なお、本店では、現金過不足の雑益または雑損勘定への振り替えは決算時に行うこととしている。
3. 新入社員向け事務処理用パソコン 3 台 (@100,000 円) と、事務用文房具 50,000 円を購入し、代金は月末に支払うこととした。なお、パソコンの設置費用 10,000 円については小切手を振り出して支払った。
4. 当期に売買目的で額面 100 円につき 97.5 円、購入手数料 20,000 円で買い入れた額面総額 1,000,000 円の伊達独眼流株式会社の社債を額面 100 円につき 98.5 円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
5. 津軽商店に対して掛けで販売した商品 80 個 (原価 : @8,000 円、売価 : @10,000 円) のうち、3 個が破損していたため返品されてきたが、商品パッケージが著しく破損していたため、店主が自家消費することとした。